

# 東京都ホール・劇場等連携フォーラム 2018

～豊かな創造・鑑賞・参加の場を共につくるために～ 開催概要

## 開催日時

平成 30 年 2 月 9 日（金） 14:00～16:40

## 会場

東京都美術館（台東区上野公園） 講堂（230 席）

## 参加者

169 名

[内訳]

都内区市町村及び公立ホール・劇場	55 名（37 団体）
実演芸術団体	51 名（35 団体）
民間企業及び民間ホール・劇場	11 名（8 団体）
国及び国立ホール・劇場、全国公立文化施設協会	10 名（5 団体）
9 都府県自治体及び公立ホール・劇場	13 名（7 団体）
東京都及び東京都歴史文化財団	29 名

（参加団体名については、別紙 1 のとおり。）

## プログラム

- (1) 主催者挨拶 14:05～14:10
- (2) 基調講演 14:10～14:20
- (3) 基調説明①「都内・首都圏のホール・劇場等を巡る現状」 14:20～14:45
- (4) トークセッション「ホール・劇場等を巡る、運営者の視点×利用者の視点」14:50～15:50
- (5) 事例紹介「武蔵野市民文化会館休館中の公演事業」 15:55～16:10
- (6) 基調説明②「ホール・劇場等の活性化へ向けた取組紹介」 16:10～16:35
- (7) 閉会の挨拶 16:35～16:40

## その他

※ 開催通知と参加の呼びかけについては、東京都公立文化施設協議会及び（公社）日本芸能実演家団体協議会にご協力いただいた。

※ 本フォーラムについては、表面上・形式的なイベントではなく、現実的な連携のきっかけとする趣旨から、参加者はホール・劇場等及び実演芸術の関係者のみとした。

※ 登壇者のプロフィールについては、別紙 2 のとおり。

## 実施状況

(司会進行 山崎利行 (東京都生活文化局文化振興部事業計画担当課長))

## 開会

### 主催者挨拶

[登壇者]

久故雅幸 (東京都生活文化局 文化総合調整担当部長)

[趣旨]

主催者＝東京都を代表して、文化総合調整担当部長より開会にあたっての挨拶を行った。

[発言概要]

- ・ 東京都は、「2016年問題」を受け、国への要望や首都圏のホール・劇場等についての調査を行うとともに、東京芸術文化評議会ホール・劇場等問題調査部会を設置してハード・ソフト両面から検討し、「ホール・劇場等施設のあり方」をとりまとめた。
- ・ 「あり方」については、これまで様々な場面で説明してきたが、「絵に描いた餅」という厳しい意見もいただいている。
- ・ 都としては、「あり方」をまとめることでホール・劇場等問題への対応を終了するのではなく、これを端緒として、今後も引き続きしっかりと取り組んでいく。
- ・ 都はつなぎ役としてホール・劇場がさらに活性化されるような取組を行い、「絵に描いた餅」を食べられる餅としていきたい。
- ・ 本日まで参加の方々には、それぞれの立場で今後活動するためのヒントを一つでも持ち帰っていただき、2020年の後もその力で、東京、首都圏、ひいては日本の芸術文化が発展することを期待したい。



## 基調講演

### [登壇者]

草加叔也（有限会社空間創造研究所 代表）

### [趣旨]

劇場コンサルタントとして各地の施設づくりに関わり、また、平成 28 年度に東京芸術文化評議会ホール・劇場等問題調査部会の部会長を務めた草加叔也氏に、「2016 年問題」を端緒として明らかになったホール・劇場等問題とは何なのか、それに対してホール・劇場や実演芸術の関係者はどう対応すべきか、中長期的な視点を交えながら、本フォーラム開催をきっかけとする連携の必要性を含めてお話いただいた。

### [発言概要]

- ・ 劇場・音楽堂等は、平成 24 年に成立した劇場・音楽堂等の活性化に関する法律において、国民の暮らしにとって欠くことのできない公共財という位置づけをされている。
- ・ しかし、ここ数年、都内の大収容施設が老朽化等を理由に次々と閉館し、加えてオリンピック・パラリンピックに向けて多くの施設の改修・リニューアルが予定され、公演の場がさらに失われてしまうのではないかという懸念が増大してきた。
- ・ そこで、危機感を覚えた実演芸術関係者からの強い要請もあって都が問題への取組を始め、ホール・劇場等問題調査部会において都内のホール・劇場等が抱える問題の整理と可視化、そして解決を図るための検討が行われて「あり方」という形でまとめられた。これは画期的な試みである。
- ・ 検討を通じて明らかになったのは、問題が一つの原因に起因するのではなく、様々な要因や時代的背景、相互の理解不足に関係しているということ。また、短期的な場の不足はもちろん、ハードの劣化や観客の固定化、さらには劇場法の理念に基づく連携や人材の育成・確保といった中長期的な課題も少なくない。
- ・ そうした課題に対して唯一万能の解決策というのではなく、都が全て解決できるわけでもない。そこで、ホール・劇場等の設置主体や管理運営関係者、そして実演芸術関係者が問題の可視化と認識の共有を通して連携を図ることが重要である。本フォーラムの開催が、タイトル通り連携の接点を作る端緒になればと切に希望する。
- ・ 都内の公設の劇場だけでも 110 施設があり、小規模の民間施設まで加えると 1300 弱の施設が存在しているが、その全てを包含する組織や団体は存在しておらず、「2016 年問題」の教訓を生かすためにも、それらの情報をつなぐことが喫緊の課題である。
- ・ さらに、根源的な課題として、劇場・音楽堂等が担う使命の顕在化も重要である。施設が使命を明らかにしつつ意思を持って人材や職能を配置し、求められる活動を実践して

いく。将来の未来像あるいは展望を持って施設提供をすることが必須であり、その結果、地域や社会の公共財として位置付けられることが求められているのではないか。

- ・ こうしたことを考えるのは本来施設設置主体の役割だが、与えられたミッションを履行するだけでなく、現場を預かるプロフェッショナルとして政策提言を行える能力が施設の管理運営者に求められている。
- ・ このフォーラムをきっかけとして、様々な組織や試みが生まれ、ホール・劇場が連携することにより、首都圏における芸術文化の創造や発信がより活性化していくことが期待される。皆さまのご協力あるいはご努力を祈念したい。



## テーマ1 実演芸術の創造発信の場を確保していくために

### 基調説明①「都内・首都圏のホール・劇場等を巡る現状」

#### [登壇者]

村田陽次（東京都生活文化局文化振興部 課長代理（事業計画担当））

#### [趣旨]

会場不足をはじめとするホール・劇場等問題に平成28年度から本格的に取り組み、同年度末に「ホール・劇場等施設のあり方」を公表した東京都から、同問題の経緯と都の取組、そして都内首都圏のホール・劇場等を巡る現状についての説明を行った。

#### [概要]

説明した主な項目は以下のとおり。

- ・ ホール・劇場等問題の経緯
- ・ ホール・劇場等問題への取組の成果、課題とわかったこと
- ・ 取り組むべき課題の例：「2000席ホール」問題
- ・ 取り組むべき課題の例：2020年以降の改修ラッシュ
- ・ 東京都の取組
  - 東京都の果たす役割について
  - 「都市づくりのグランドデザイン」（平成29年9月）
  - 東京文化会館のミッション
  - 東京芸術劇場のミッション
  - 江戸東京博物館ホールの改修
- ・ 情報提供（新設、改修など）



## トークセッション「ホール・劇場等を巡る、運営者の視点×利用者の視点」

### [登壇者]

- ・ 草加叔也（有限会社空間創造研究所 代表）
- ・ 大和 滋（公益社団法人日本芸能実演家団体協議会 参与）
- ・ 上野晶子（公益財団法人文京アカデミー 文京シビックホール 館長）
- ・ 梶奈生子（東京文化会館 事業企画課長）
- ・ 山崎利行（東京都生活文化局文化振興部 事業計画担当課長）

### [趣旨]

平成 28 年度、東京芸術文化評議会ホール・劇場等問題調査部会における議論の中で明らかになったことの一つは、施設の運営者側と利用者たる実演芸術団体との意見の相違と、コミュニケーションによる改善の可能性であった。

それぞれの立場を代表する有識者のトークによって、両者の違いを可視化するとともに、課題克服のための各劇場のミッションの明確化の必要性や、施設と団体との連携の重要性などについて語っていただいた。



## 事例紹介「武蔵野市民文化会館休館中の公演事業」

### [登壇者]

平岡正之（公益財団法人武蔵野文化事業団 常務理事）

### [趣旨]

2020年オリンピック・パラリンピック大会後は、同大会に向けた施設整備や改修が一段落する一方で、老朽化に対応する既存ホール・劇場等の改修・改築が相次ぐことが予想されている。その中で、ホール・劇場が休館中も存在感を発揮していくための参考事例として、平成28年度の1年間に渡る大規模改修休館中に近隣施設との連携等によって自主公演を継続実施した武蔵野市民文化会館の経験をお話いただいた。

### [概要]

説明した主な項目は以下のとおり。

- ・ 休館中の公演準備の始まり
- ・ 武蔵野文化事業団が指定管理を受けている他施設（ホール）
- ・ 大学での公演が実現するまで
- ・ 大学で講演する上での留意点
- ・ 他の市・区のホールでの主催公演
- ・ 他の市・区のホールで行う上での課題と利点
- ・ 休館中の主催・共催公演実績
- ・ 休館中もこれだけの事業を行えた理由は？



## テーマ2 誰もが芸術文化を鑑賞し、享受できるホール・劇場に向けて

### 基調説明②「ホール・劇場等の活性化へ向けた取組紹介」

#### [登壇者]

村田陽次（東京都生活文化局文化振興部 課長代理（事業計画担当））

#### [趣旨]

観客の固定化や高齢化が進む中、ホール・劇場が中長期的に持続しミッションを果たしていくためには、広い意味でのバリアフリーを進めて誰もが芸術文化を享受できる施設とするとともに、将来の担い手である子供はもちろん、あらゆる年齢層に対する働きかけを行うことによって施設を活性化し、社会的価値を増していくことが重要である。そうした観点から、都立文化施設をはじめ首都圏のホール・劇場等における参考事例を紹介した。

#### [概要]

説明した主な項目は以下のとおり。

- ・ 観客の固定化について
- ・ 子供向け、親子向けの取組と事例について
  - 東京文化会館ミュージック・エデュケーション・プログラム
  - 東京芸術劇場バックステージツアー
  - 上野の森バレエホリデイ
  - 芸術体験ひろば（（公財）日本芸能実演家団体協議会、新宿区）
  - WORLD HAPPINESS 2017
- ・ アクセシビリティ強化の取組と事例について
  - インクルーシブな社会への取組（ミュージザ川崎）
  - 東京芸術劇場 鑑賞サポート
  - （一社）コンサートプロモーターズ協会（A. C. P. C.）
  - 東京都歴史文化財団 多言語対応
- ・ 緊急時の対応について
  - 危機管理についてのアンケート
  - 避難体験オペラコンサート
  - 都立文化施設における手荷物検査
- ・ 取組の共有に向けて
  - 「見せる化」の取組（ミュージザ川崎）
  - 県内施設等との連携の取組（神奈川県民ホール）

## 閉会

### 閉会の挨拶

#### [登壇者]

山崎利行（東京都生活文化局文化振興部 事業計画担当課長）

#### [発言概要]

- ・ かなりの情報量だったと思うが、それぞれの取組の中で一つでも、「そうか」という気づきくらいでもいいので、持ち帰ってもらいたい。
- ・ 本日が東京都の取組の終着点ではなく「ここからがスタート」という気持ちで取り組んでいく。都がこうしろと指示するのではなく、皆さんのつなぎ役、インターフェイスとしての役割を果たしていきたいと考えている。
- ・ 取組の一つとして、都のホームページの中で、ホール・劇場等に関する基本情報等についてオープンデータとして提供し、合わせて、本日紹介したような事例などの情報も随時、更新しながらホームページで提供していきたい。情報提供や調査・ヒアリング等への協力についてもぜひお願いしたい。
- ・ 皆さまそれぞれが考えているミッションは同じ方向を向いていると思っており、サブタイトル「豊かな創造・鑑賞・参加の場を共につくる」の実現は、ホール・劇場だけでも実演芸術団体だけでも難しい。それぞれの立場を踏まえながら、双方にメリットのある形を一つでも多く作り出していければ、芸術文化が発展し、より豊かな社会が築いていけるものと思う。



## まとめ

### 本フォーラムの意義と成果について

- 従来、ホール・劇場や実演芸術に関しては、行政の連絡会議や全国規模（例：全公文、劇音協）、地域ローカル、公立施設（例：都公文協）、芸団協を中心とする実演芸術団体の協議体などがあった。しかし、都内及び首都圏を対象に、民間ホールを含むホール・劇場関係者と行政、実演芸術団体が一堂に会する大規模な会議等は例がなく、当日登壇者からも指摘されたように、本フォーラムはまさしく画期的な試みであった。
- 東京都としても、約2年間に渡るホール・劇場等問題への対応について一旦取りまとめ、発端となる要望を寄せた実演芸術団体を含む主要関係者の出席の下で報告・アピールできたことは大きな成果であった。これは、昨年3月に公開した「ホール・劇場等施設のあり方」における予告の実現でもある。
- 出席者に関しては、ホール・劇場等関係者を網羅しているとまでは言えないものの、公民偏りなく、また各団体の幹部やホール・劇場等問題調査部会委員、これまでのヒアリング先などを含んでおり、小規模ながら波及効果の大きい集いとなったと考えられる。
- 内容的には、ハード面を扱った基調説明①では会場不足問題と都の対応に加え、「2000席ホール」問題や来るべき改修ラッシュといった中長期的な課題についても説明し、情報提供や協力を呼びかけることができた。

また、それらの課題を踏まえ、トークセッションにおいて、ホール・劇場側と実演芸術団体側の双方出席という会議の特性を活かし、お互いの立場の違いを理解しつつ協力していくことの重要性を訴えることができた。

さらに、武蔵野市民文化会館の改修中の対応を紹介することで、各施設にとって来るべき改修時における貴重な参考事例を紹介することができた。
- ソフト面を扱った基調説明②では、観客の固定化などの中長期的な課題を紹介するとともに、その解決の糸口となる考え方と参考事例を示すことができた。特に説明の最後、神奈川県民ホールの事例から、改めてホール・劇場と実演芸術団体、行政等の分け隔てない協力を呼びかけることができたことは大きな意義があった。
- 当日、登壇者はもちろん、出席者の間でもフォーラムの前後に挨拶や情報交換を行う姿が多く見られ、そうした交流についても複数の方から感謝と、さらなる機会を期待する声が寄せられた。また、本フォーラムの準備やヒアリングを通じて、国・九都県市連絡会議メンバーや全公文・都公文協・芸団協・都内自治体をはじめ、様々な関係者とのネットワークを強化できたのも我々にとっての大きな成果である。

## 当日配布資料

- ・ 次第
- ・ 登壇者プロフィール
- ・ 都内・首都圏のホール・劇場等を巡る現状
- ・ 文京シビックホール 事業実績
- ・ 文京シビックホール パンフレット
- ・ 武蔵野市民文化会館休館中の公演事業
- ・ 「文化オリンピックで地域の活力創出を ～武蔵野市で私たちができること～」 チラシ
- ・ ホール・劇場等の活性化へ向けた取組紹介
- ・ 上野の森バレエホリデイ 2018 リーフレット
- ・ アンケート